

岡山スーパー耐久レースで次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」使用 マツダ参戦車両に100%サステオを導入、トヨタの水素運搬トラックにも供給

株式会社ユーグレナ

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充、以下「ユーグレナ社」）は、11月13日・14日に岡山国際サーキットで開催されたスーパー耐久シリーズ2021第6戦「スーパー耐久レース in 岡山」※¹において、ST-Q クラスに参戦したマツダ株式会社のSKYACTIV-D 1.5（従来のディーゼルエンジン）搭載車「MAZDA SPIRITRACING Bio concept DEMIO」に、次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」（以下「サステオ」）を供給したことをお知らせします。また、水素エンジンでレースに継続参戦しているトヨタ自動車株式会社の再生可能エネルギー由来水素を運ぶ中型トラックでも「サステオ」が使用されました。

※1 川崎重工業株式会社、株式会社SUBARU、トヨタ自動車株式会社、マツダ株式会社、ヤマハ発動機株式会社の5社が、2021年11月13日から14日に実施したレース（3時間レース）。カーボンニュートラル実現に向けた挑戦について共同で発表
<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2021/202111/211113a.html>



「サステオ」を給油した「MAZDA SPIRITRACING Bio concept DEMIO」



記者会見の様子

「サステオ」は、使用済み食用油と微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ、以下「ユーグレナ」）等を原料に使用し、車両自体の内燃機関を変更することなく使用することが可能な次世代バイオディーゼル燃料です。このバイオ燃料は、燃料の燃焼段階ではCO₂を排出しますが、使用済みの食用油の原材料である植物も、微細藻類ユーグレナも、成長過程で光合成によってCO₂を吸収するため、燃料を使用した際のCO₂の排出量が実質的にはプラスマイナスゼロとなるカーボンニュートラルの実現に貢献すると期待されています。



今回マツダが参戦した車両は、軽油と混合しない100%の「サステオ」を使用しており、同車両に搭載されているディーゼルエンジン SKYACTIV-D 1.5 は十分な性能を発揮することが出来ました。「サステオ」を100%で使用するのとは今回が初めての事例となります。

ユーグレナ社は、今後もサステオの普及拡大に向けて、来シーズンも燃料供給を行う計画です。

<株式会社ユーグレナについて>

2005年に世界で初めて微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の食用屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナ・クロレラなどを活用した機能性食品、化粧品等の開発・販売のほか、バイオ燃料の生産に向けた研究、遺伝子解析サービスの提供を行っています。また、2014年より行っている、バングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」の対象商品を、2019年4月より化粧品を含む全グループ商品に拡大。2012年12月東証マザーズに上場。2014年12月に東証一部市場変更。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、事業を展開。<https://euglena.jp>